

テーマ設定や授業形態、手法をヒントに カスタマイズして総合学習に活用

常翔啓光学園高等学校 (大阪・私立)

【活用キーワード】 >> ● キャリア教育 ● 進路探求 ● AL(アクティブラーニング)

「スタディサプリ」の “よのなか科” 活用法



教育改革実践家で、杉並区立和田中学校元校長の藤原和博先生(現・奈良市立一条高校校長)が、経済、学校、仕事、社会、起業の5つのテーマで59講義を行う“よのなか科”。10分程度の講義の後、ワークシートを使って学んだことを形にしてい

生徒たちに聞いた “よのなか科”で学んだこと



「付加価値」と「伝えること」の大切さ

商品も人も、付加価値が大切。そういう人間になるために、幅広い知識を身に付け、勉強をすることが大切なのだと気付きました。また、さまざまな発表を通して、わかりやすく伝えることの大切さも学びました。(濱本真生くん 特進コースI類1年 / 写真中)

経済って面白い。将来は役に立つ仕事を

ハンバーガーの原価や店の立地を考えたり、アジアの経済成長についてプレストしたことが楽しかったです。得意な英語や政治経済をもっと学び、将来は世の中の役に立つ仕事がしたいです。(井川 哲くん 特進コースI類1年 / 写真左)

人の意見を聞き、認める大切を学んだ

授業中は、漠然と話を聞くのではなく、メモを取り、考えを形にしていって理解が深まるのがわかりました。以前は自分の意見に固執するタイプでしたが、人の意見を聞き、認めていく大切さも学びました。(大島弘嵩くん 特進コースI類1年 / 写真右)

2年生は総合学習の時間を使い 枚方青年会議所とコラボで冊子を作成

1年生の時から“よのなか科”の講義を活用してきた2年生は、本年度市制70周年を迎えた枚方市の地域連携事業に、55周年の節目を迎えた枚方青年会議所と一緒に参加。4月からフィールドワークなどを行い、枚方市の魅力や課題を冊子にまとめ、8月の枚方祭ではブースを設けて発表をした。

取材・文 / 丸山佳子

課題

総合学習の
授業改革が必要。しかし、
教員だけでは難しい

学園内に大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学の3大学を有する常翔啓光学園高校は、早くから高大連携の授業に取り組みむなど、キャリア教育に力を入れてきた。そうした中で課題となっていたのが、総合学習の授業改革だった。「教員だけで授業のテーマを見つけ、指導案まで作るのには、時間的にも難しい。ヒントになるものを探していたときに知ったのが、『スタディサプリ』の『よのなか科』でした。講義動画を見てから、ディスカッションやグループワークを行うAL型の授業ですから、一人の教員が修正しながら3回くらいはやらないと、良い授業にはならない。そう考えて、導入した2016年度は、5人の教員で分担を決め、情報交換をしながら1年生の総合学習で活用することになりました」と進路指導部長の盛山 治先生。

活用

生徒に難しいテーマは、
設定を変えるなど
カスタマイズして使う

生徒に人気が高いのは、経済編の「ハンバーガー店をつくらう」シリーズ。「人の流れを読む」、「1日の売り上げを推理する」といった身近なテーマで社会経済を学ぶことができるため、「楽しかった」「経済に興味をもった」「勉強をする意味がわかった」といった声も多いという。「『よのなか科』はテーマも豊富だし、1人で、ペアで、グループで考えるなど、段階を追って情報を共有していく手法なども、面白い。しかし、回を重ねていくと、自校の生徒には合わないテーマが出てくることもある。そういうときは、テーマ設定をわかりやすくする、生徒に合うテーマだけをチョイスして使うなど、カスタマイズして活用しています」と導入時から関わってきた名手智紀先生。こうして1年目の経験を基に、導入2

年目の今年度は、1年生のクラス担任がそれぞれのやり方で、よのなか科を総合学習で活用している。「授業前に講義と指導案を見て、ワークシートを作り、シミュレーションを考えます。準備は大変ですが、授業が盛り上がりれば手こたえがある。さらに良い授業にするには、生徒の考えを引き出す技術が必要だと実感しています」と、1年生学年主任の清水弘和先生。同じく1年生担任の近藤広幸先生も、「クラスによって理解度かなり違うので、どうやって生徒をやる気にさせるかが課題」と言う。同校でAL型授業を推進してきた数学科の湊 康佑先生は、「『よのなか科』の導入は、先生たちがAL型授業に慣れるいい機会だった」と話す。「パッケージを上手にカスタマイズして活用していくとともに、今、最も必要なのは、ファシリテーターとしてのスキルを高める教員研修。技術が身に付けば、よのなか科の活用方法もまた大きく変わっていくはずだ」



進路指導部長

盛山 治先生(前左)
英語科 1年生学年主任
清水弘和先生(前右)
情報科 3年生担任
名手智紀先生(後左)
数学科 2年生担任
湊 康佑先生(後列中)
社会科 1年生担任
近藤広幸先生(後右)

School Data

創立1960年 / 総合学科
生徒数 1378人(男子876人、女子502人)進路状況(2017年3月実績) 大学進学312人、海外大学進学1人、短大進学7人、専各進学10人、就職3人、その他30人